

講義名	情報倫理(経済情報学科1年生＋経済学部2年生以上)			授業形態	
担当教員	三谷 哲雄	開講期・曜日・時限		後期 木曜日 2 時限	
		単位数	2	履修開始年次	1 年生
		ナンバリング・コード		INF180	

主題と概要
■注意■ PDFでは全ての内容が表示されない場合があります。内容は、必ずRYUKA Portalから参照できるシラバページで確認してください。 「備考」を必ず確認してください。 ■■■■■ インターネットの普及に伴い、電子メールでの迷惑行為、Webサイトでの詐欺行為、不正アクセスによる情報漏洩、著作権の侵害、文化摩擦など、日常生活において、これまでにないトラブルが生じている。このようなトラブルを避けるため、「情報倫理」では情報社会で生きるために必要な最低限の知識を身に付けることをめざす。

到達目標
受講生は、インターネット社会における加害防止や被害防止のために一人一人に求められる基礎的な資質を習得することで、情報社会をこれまでよりも安全に生きることができるようになる。 具体的には、次の3点の習得を目指しています。1つ目は、「インターネット社会（あるいは情報社会）において、生活者がネットワークを利用して、互いに快適な生活を送るための規範や規律、である「情報社会の倫理」の修得です。2つ目は、生活する上できっても切り離せなくなっているインターネット社会を生き抜くために、そこで起っている様々なトラブルに対する被害防止、加害防止のための「体系的な知識」の修得です。またそれらのトラブルは、日々変化しています。3つ目は、それに対応するために不可欠な「最新の知識」の修得です。

提出課題
授業の進捗および内容に応じた複数回のレポート課題（宿題として）を予定している。提出方法は、次のとおりである。 1) 授業中に課題を提示 2) 指示された課題の作成要件および課題要件を満たすような課題成果物（Wordファイル）を作成 3) 次の授業の3日前の13時までキャンパス クロスで提出する（提出用に登録されたレポートにて提出）
課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法
翌授業日の開始直後に個々の内容を踏まえた総合的な講評を行う予定である。

評価の基準
提出課題と定期試験により到達目標に対する達成度を評価する。点数は、提出課題（宿題としてのレポート課題）に40%、定期試験（もしくはそれに相当する課題）に60%を目安として配分し、100点満点で算定する。
履修にあたっての注意・助言他
(1) オンラインサービスやICT機器の利用 本科目では、授業に関する動画の視聴のために、Microsoft社が提供している動画共有サービス「Stream」（初回アクセス時に大学の電子メールアドレス(アカウント)とパスワードでログインが必要)を使います。視聴方法は、キャンパス クロスのお知らせにて連絡します。 また、授業中に授業に関連するWebページの閲覧や検索などを行います。通信の可能なPCやタブレット、スマホなどの端末を持ち込んで構いません。もちろんなくとも問題ありません。 (2) 受講のコツ 講義内容は、善段からよく見聞きする事柄も多いと思います。しかし、詳しいことまでは意外と知らないこともたくさんあります。また情報倫理に関わる事柄は多岐にわたります。個々の事柄は簡単でも、非常にたくさんの知識を修得しなければなりません。そのために、知っていることも、知らないことも、講義中はしっかりとメモを取ってください。知っているかどうかでは判断してください。授業で持ったことを自分の知識や経験に照らし合わせて、自分に必要な知識を自分自身で見つけ出し、この授業を機会に確実に取り入れ（記憶）していただくことをお勧めします。

評価の基準				
提出課題と定期試験により到達目標に対する達成度を評価する。点数は、提出課題（前課としてのレポート課題）に40%、定期試験（もしくはそれに相当する課題）に60%を目安として配分し、100点満点で算定する。				
履修にあたっての注意・助言他				
(1) オンラインサービスやICT機器の利用 本科目では、授業に関する動画の視聴のために、Microsoft社が提供している動画共有サービス「Stream」（初回アクセス時に大学の電子メールアドレス(アカウント)とパスワードでログインが必要）を使います。視聴方法は、キャンパス クロスのお知らせにて連絡します。 また、授業中に授業に関連するWebページの閲覧や検索などを行います。通信の可能なPCやタブレット、スマホなどの端末を持ち込んで構いません。もちろんなくても問題ありません。 (2) 受講のコツ 事務内容は、普段からよく見聞きする事項も多いと思います。しかし、詳しいことまでは意外と知らないこともたくさんあります。また情報倫理に関わる事項は多岐にわたります。個々の事項は簡単でも、非常にたくさんの知識を修得しなければなりません。そのために、知っていることも、知らないことも、講義中はしっかりとメモを取ってください。知っているかどうかは後で判断してください。授業で得たことを自分の知識や経験に照らし合わせて、自分に必要な知識を自分自身で見つけ出し、この授業を機会に確実に吸収（記憶）していくことをお勧めします。				
教科書				
インターネット社会を生きるための情報倫理 改訂版。	情報教育学研究会・情報倫理教育研究グループ	実教出版	495	9784407346213
参考図書				
なし。				

その他
授業で利用する資料は、適宜配布する。なお資料は、キャンパス クロスにてPDFファイルとして配布する。参考文献は担当教員が必要に応じて指示する。 資料への記入は、印刷物に行っても、PDFファイルに直接入力しても構いません。ただし、昨年の受講生の様子を見ると、印刷物が簡単そうでした。PDFファイルへの入力は、タブレット型PCなどを使い慣れた受講生の場合は、何の問題もなく手書き入力をしているようでした。ラップトップ型PCやデスクトップ型PCの場合は、ペン入力できるものであればタブレット型PCと同様に入力可能ですが、ペン入力できない場合はキーボード入力となります。この場合、キーボード入力がないと慣れないと難しいかもしれません。ということで、おすすめは、「印刷物」です。が、これを機会に、PCなどで「ノート取り」にチャレンジしてもよいかもしれませんね。 PDFファイルの追記や保存などの操作は、WindowsPCであれば、Microsoft EdgeやAdobe Acrobatで可能です。また、Microsoft OneNoteに取込めばさらに自由な書込みやノート作成などが可能です。一方、スマホやタブレット（Windows以外のタブレット）では、本学アカウント・パスワードで利用できるOneDriveアプリで閲覧・操作ができるようです。なお、Apple社製の携帯端末のブラウザSafariでは、パスワード設定済PDFの場合、パスワード入力を求められて操作できないようです。OneDriveアプリの利用をお勧めします。
授業計画
(1) 基本方針 到達目標である【情報社会の倫理】や【体系的な知識】に関しては、6つの講義項目（1）について、教科書や補助教材（2）を使って体系的に学びます。また、【最新の知識】の習得のために、Web記事【ニュースサイトなどに掲載されているニュース記事や解説記事、コラム記事など】（3）を活用して、いまインターネット社会で起こっている様々なトラブルの実態やその原因、対策などについて考えます。「レポート課題（提出課題）（詳細は1回目の授業にて説明）」は、授業の進捗に合わせて、宿題としてほぼ毎回実施します。【定期試験】は実施しません。その代わりに、授業全体の総まとめとして「定期試験に代わる2つの課題（詳細は1回目の授業にて説明）」を授業の最終日に実施します。 (1) 6つの講義項目 インターネット社会（情報社会）における情報倫理の実たす役割 - 個人情報の大切さとその扱い方 - 知財財産を守るために - ネットにおけるコミュニケーションとマナー - 情報社会における生活の変化 - インターネット社会で安全に過ごすために (2) 補助教材 テストト以外に、補助教材として、社団法人私立大学情報教育協会、情報倫理教育振興研究委員会の製作した「情報倫理教育e教材（ビジュアル資料）」の一部を利用します。また、情報教育学研究会（IEC）の情報倫理教育研究グループの資料も利用します。 (3) Web記事 紹介するWeb記事は、担当教員自ら集めた情報倫理に関わる関係する記事です。しかも、講義当日までの間にリリースされた「新鮮」な記事です。これらの記事は、担当教員が購読しているメールマガジンやWeb新聞の中から、情報倫理を受講している皆さんに役に立つと思われる記事を抽出したものです。内容の紹介とともに、その要点などを解説します。これは、ほぼ毎回の講義の最初にを行います。「とても役に立つ情報」「身近な情報なので退屈しない」「自宅に帰ってすぐ確認したい」・・・などなど、過去の受講生の言葉です。 (2) 1回の授業の基本的な流れ（詳細は1回目の授業にて説明） 2項目を活用、基本的には次のような流れで授業を進める予定です。講義に関連する資料(PDFファイル)は、1週間程度前までにキャンパス クロスにて事前に配布する予定です。予習動画は、約1週間前までには公開予定です。 (1) 予習：講義に関する資料や教科書、予習動画などを使った事前学習 (2) 授業中：事前学習の内容の要点の再確認、授業に関わるWeb記事の紹介や解説、事前学習の内容を踏まえたWeb記事に関するディスカッションなどを予定（前回の宿題講評や当日の宿題提示なども含む） (3) 復習：資料や教科書などで復習、宿題としてのレポート課題（提出課題）の実行・提出 (3) 動画活用 本科目では、予習動画に加え授業動画も用意します（予定）。授業動画は、授業中の教員PC画面や音声を受録した動画で、授業の復習用に公開します。必要に応じて活用ください。
01 実施スケジュール
01 イントロダクション
予習【2時間程度】：講義資料の入手や印刷などの受講準備、講義資料で講義内容の事前確認
復習【2時間程度】：授業内容の復習
02～13の授業の進め方
本科目では、次に、次の + の内容を1セットで実施する
・講義項目の事前学習内容の要点の再確認・Web記事の解説・レポート課題提示
・予習【2時間程度】：指定された講義項目の事前学習
復習【2時間程度】：授業内容の復習、事前学習の内容に関わるレポート課題の実施と提出
・講義項目の内容を踏まえてWeb記事を使ったディスカッション・レポート課題提示
・予習【2時間程度】：指定された宿題のWeb記事を使った事前学習
復習【2時間程度】：授業内容の復習、Web記事を用いたレポート課題の実施と提出
――
02 { } の
03 { } の
04 { } の
05 { } の
06 { } の
07 { } の
08 { } の
09 { } の

授業形態（アクティブ・ラーニング）									
<table><tr><td>ア：PBL（課題解決型学習）</td><td>○</td><td>イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）</td></tr><tr><td>ウ：ディスカッション、ディベート</td><td></td><td>エ：グループワーク</td></tr><tr><td>オ：プレゼンテーション</td><td></td><td>カ：実習、フィールドワーク</td></tr></table> ○ キ：その他（Aし型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	ア：PBL（課題解決型学習）	○	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）	ウ：ディスカッション、ディベート		エ：グループワーク	オ：プレゼンテーション		カ：実習、フィールドワーク
ア：PBL（課題解決型学習）	○	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）							
ウ：ディスカッション、ディベート		エ：グループワーク							
オ：プレゼンテーション		カ：実習、フィールドワーク							
基本的には、講義形式、です。講義中に、携帯端末（携帯電話や通信機能付きPCなど）を利用して、授業に関わるキーワードやニュース記事、解説記事などのWeb検索や									

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連
卒業認定・学位授与の方針（DP:ディプロマ・ポリシー）に示されている要件に対する当該授業科目の寄与の程度を行課の【 】内に4段階（0～3）に分けて記載する。各段階の意味は、教務部の指示に従った。 (1) 「ネアカ」のびのび「へこたれず」の精神をもった人材 [0] 夢や志を持ち、明るく元気でどこに出ても物怖じすることなく、誰とでもしっかりと言葉を交わすことができ、逆境でもたくましく生き抜くことができる。 (2) 知識を知識に転換することができる。論理的思考力を持った人材 [3] 課題発見・課題解決に必要な情報を見定め、適切な手段を用いて収集・調査、整理することができる(情報収集力) [1] 収集した個々の情報を多角的に分析し、現状を正確に把握することができる(情報分析力) [1] 現象や事象のなかに潜れている問題点やその原因を発見し、解決すべき課題を設定することができる(課題発見力) [0]さまざまな条件・制約を考慮して、解決策を吟味・選択し、課題の解決に向けた道筋や段取りを明らかにした上で、具体化することができる(構想力) (3) 創造力（新しい視点と豊かな発想）を持った人材 [0] 新しい視点と豊かな発想によって、新しい価値を生み出すことができる (4) 自主・自立の精神を持った人材 [0] 物事に自ら進んで取り組むことができる [0] 自ら目標を設定し、他に依存することなくそれを成し遂げることができる [0] 自ら課題を特定し、それを解決に結びつけることができる (5) 仲間と協同して、物事を成し遂げることができる人材 [0] 他者に働きかけ、協力を取りつけることができる [0] 他者との意見の違いや立場の違いを理解し、協力して物事を進めることができる

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述
基本的には、講義形式、です。講義中に、携帯端末（携帯電話や通信機能付きPCなど）を利用して、授業に関わるキーワードやニュース記事、解説記事などのWeb検索や閲覧など行う場合もあります。また、受講生には、講義に関わる発言を求めることもあります。さらに、Web検索や発言のテーマは、事前学習で予習してきた内容に基づくものであり、その意味では、反転授業の要素も含まれます。

実務経験の有無及び活用

備考
■受講上のアドバイス■ (1) 講義に関する情報はRYUKA PortalのWeb開講やキャンパス クロス(RYUKA Portalからもアクセス可能)で確認すること 本学での皆さんの連絡は、講義に関する案内、レポート課題の場などには、授業中だけでなく、通信、RYUKA Portalやキャンパス クロスでも行います。講義資料の配布ページには、掲載期間があります。掲載期間を過ぎたら、閲覧やファイルのダウンロードができなくなります。連絡を受けたら速やかにダウンロードし、自分のPCやスマホなどの端末に必ず保存してください。レポート課題には、提出期限があります。また、レポートを提出した後は、その提出状況を必ず確認してください。 (2) 講義資料